

AL 型授業の実践と課題

大阪府立岸和田高等学校



常に、“対話”のある英語リーディング授業

～主体的な学びと4技能向上をめざして～

【英語科 重野 金美】

1. 科目の概要

科目：コミュニケーション英語 I (1年生, 120名)

教科書：PRO-VISION English Communication I (桐原書店)

到達目標：

- 英文の論理展開を把握し、文章全体の要旨を理解できる。
- 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の意見を話したり書いたりすることができる。

2. 授業方針

- 4技能のバランスに配慮する
- 生徒が英語を使う場面を増やす
- 英語でのやり取り(対話)の場面を作る
- 生徒に思考・判断・表現の場面を与える
- 主体的に学ぶ態度を養う

3. 授業構成

〈前時の復習〉
音読活動(Listen and Repeat / Close Reading)

〈帯活動〉
1分間チャット(教科書内容に関連するスピーキング活動)

〈導入〉
・オーラル・イントロダクション → **思考タスク**

〈展開〉
・新出語彙の確認
・**本文読解(スキミング活動)**
・音読活動(Listen and Repeat / Overlapping / shadowing)

〈整理〉 次回内容に関する発問の投げかけ

自己との対話

〈思考タスク①〉
本文内容に関して類推や評価など自分の意見を考える



他者との対話

〈思考タスク②〉
本文内容に関して考えた自分の意見をペアで伝え合う



教材との対話

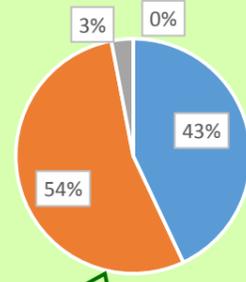
〈スキミング〉
思考タスクで考えた読み取りのポイントを探しながら本文を読む



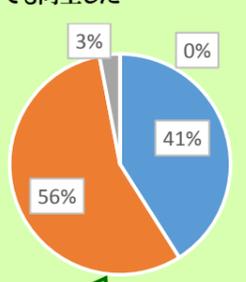
4. 得られた効果(1学期授業アンケート)

■よく当てはまる ■やや当てはまる ■あまり当てはまらない ■全く当てはまらない

- 授業にいつも主体的に取り組めた。
- 授業を通して、自らの英語の4技能が少しでも向上した



ほぼ全員が主体的な学びを！！



ほぼ全員が4技能向上を実感！！

※授業アンケートは本授業受講生徒120名(1年生, 3クラス)に対して行ったものです。

5. 考察

〈結果に対する考察〉

- 英語での対話(やり取り)の場面を多く設定したことで、「学習への主体性」と「4技能への自己肯定感」向上につながった。

〈今後の課題〉

- 本AL型授業に対する継続的な効果検証が不十分
- 英語による対話の量的・質的向上 など

主体的に“学ぶ・学びあう”授業をめざして

～物理学によるキャリア教育の実践～

【物理科 五味 智子】

1. 科目の概要

科目：理数物理 (2年生, 131名, 物理選択者のみ)

教科書：物理 (数研出版)

到達目標：

- 日常生活で観測される物理現象を物理法則と関連させ、深い物理的視点・思考力を身につける。
- 物理現象のメカニズムを理解し、現象を式で表すことができる。

2. 授業方針

- 単元のポイントを**まとめる力**を養う
- 予習で足りない知識を把握させる
- **主体的に学ぶ姿勢・学びあう姿勢**を養う
- 物理的視点をもって現象を理解させる
- 物理現象を式で**表現する力**を養う
- 考えを**伝える力**を養成する

3. 授業構成

〈予習〉
授業用ノート作成 (教科書・問題集より)

〈個人学習〉
基本問題を解く (基礎の理解度を測る)

〈グループ学習〉
・理解の共有 (基本問題)
・**演習実験や身近な物理現象の考察**

〈発表〉
・グループ学習でのまとめ
・**クラス全員への理解の共有**

〈まとめ〉 本時のまとめと次回予告

まとめる力の養成

予習で授業用ノートを作成
→ 要点をまとめる力
→ 理解が足りない内容の把握



学ぶ姿勢・学びあう姿勢

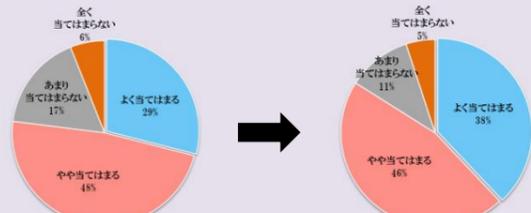
・基本問題の確認をし、グループ内全員が理解できるよう教え合う
・身近な物理現象を基礎知識を応用させて理解しあう

表現し、伝える力の育成

グループ学習での内容を、発表でグループの考えを表現できるようにまとめる。また、発表を聞く態度も重視する

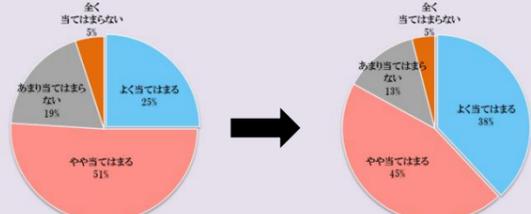
4. 生徒の声 (授業アンケート 2016年7月・11月実施より)

- 授業に興味・関心を持つことができた



肯定的な意見の生徒が7.7%から**8.4%**に増加

- 授業を受けて知識や技能が身についた



肯定的な意見の生徒が7.6%から**8.3%**に増加

5. 結果と課題

- 板書のための授業に比べ、グループ学習では積極的に意見交換を行う姿が見られた。

- わからないことを共有し、教えあうことにより、理解の向上へと繋げることができた。

〈今後の課題〉

- 実力向上の正確な検証ができていない。
- 発展的内容、演習の時間の不足をどう補うか。